日児誌2011年9月号(115:1505-1507)掲載

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert（傷害注意速報）

No. 24　しつけ箸による刺傷

事　例		年齢：4歳5か月　　性：男　　体重：15.5kg
傷害の種類		刺傷
原因対象物		しつけ箸
臨床診断名		下顎部刺傷
発生状況	発生場所	自宅
	周囲の人・状況	父，母とともに夕食を食べ終え，本児は食卓を離れてパソコン用の回転する椅子に座り，椅子をぐるぐる回して遊んでいた．椅子には肘かけはついていない．この椅子は購入したばかりであった．
	発生時刻	2011年6月18日（土）　午後8時頃
	発生時の詳しい様子と経緯	児は「しつけ箸」（写真1）を持ったまま椅子に座っていたが，母親は気づかなかった．椅子をぐるぐる回しているうちにバランスを崩し，本人の右側に転落，右手を床につくかたちで床に落ちた．頭も顔も打っていないようであった． 右手にしつけ箸を持ち，3本の指が箸のリングにしっかりとはまっていた（写真2）．受傷直後，下顎中央にしつけ箸の先が刺さり，抜けた．かなりの出血が認められた．タオルを当てて止血し，患部をみるとぱっくり穴が開いていた．刺傷部位には穴が2つ認められたので，2本刺さったと思われた（写真3）．
治療経過と予後		土曜日の夜のため，救急医療を行っている医療機関を捜して受診した．傷の深さはそれほど深くないため，テーピングを行ったが固定がうまくいかず，2針縫合した．毎日受診し，合計11日間，消毒のために通院した．顎部や口腔内に機能障害は認められなかった．

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. しつけ箸は，幼児に箸の持ち方を教える器具で，2歳から就学前向き，入園から小学校低学年向き，入学から成人女性向き，成人男性向きなど各年齢層用のものがあり，また右用，左用もある．幼稚園の年少組では，一クラスに5～6人は「しつけ箸」を使用している子どもがいるとのことである．箸をうまく持てない年齢では，箸を振り回して遊ぶ危険性があり，幼稚園ではその予防策としてしつけ箸の使用を認めているところもある．
2. しつけ箸の構造として，リングに指を入れて保持するタイプ（写真1）と，箸から枝状の突起が出ているタイプがある．枝も1本のもの，2本のものがある．
3. 今回のしつけ箸は，指に固定する構造になっており，転落しても箸は指から外れない．転落して肘が床についたとき，箸先が上向きになって下顎部に刺さったと思われる．しつけ箸の先は丸く加工されており，刺さるようにはみえないが，ある程度の力がかかると皮膚を貫き，刺傷となることがわかった．
4. 尖った物を手指に固定する器具として，しつけ箸の他に鉛筆の持ち方補助具などがある．これらの補助具は，尖った物につけて使われ，手指で使用されるために顔に近く，顔面や眼球の刺傷のおそれがある．また，喧嘩になったときに付けていると，相手を刺す可能性もある．
5. 尖った物に付けて幼児が使用する補助具は，手指から簡単に外れる仕掛けを考える必要がある．

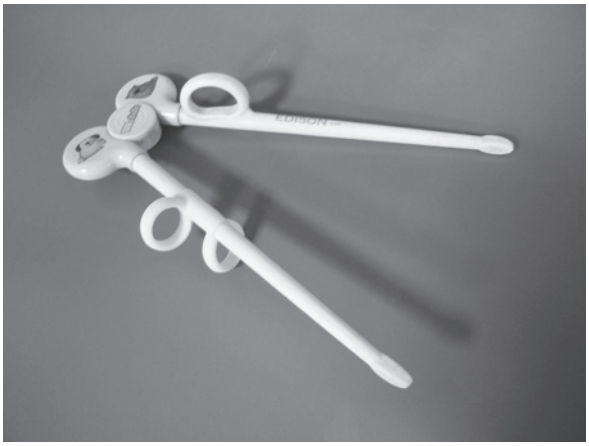

写真１　使用していたしつけ箸

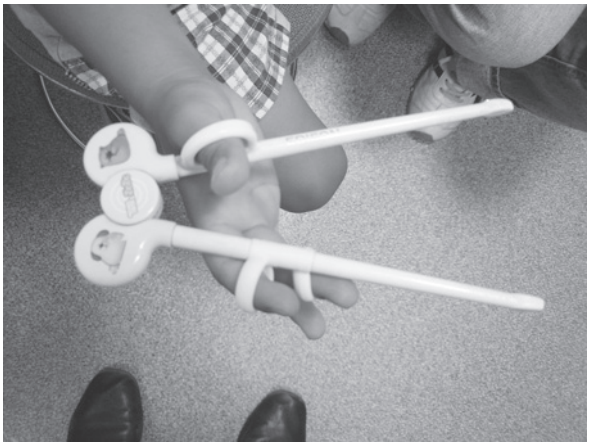

写真２　本人の使用時の状態

写真３　第 15 病日の下顎部